

## うきは市ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各国で地球温暖化が原因と考えられる猛暑や豪雨等の異常気候が報告されており、我が国においても平均気温の上昇や、大雨・台風等による被害、農作物や生態系への影響が観測されています。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が2018年に公表した特別報告書によれば、「気温上昇を2°Cよりリスクの低い1.5°Cに抑えるためには、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることが必要」と示されています。

我が国は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを宣言するとともに、2021年4月には、2030年度の新たな温室効果ガス排出削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けるとの新たな方針を示しました。

本市では、「うきはブランドを継ぐ しあわせ彩る うきは市」を将来像として掲げ、山や川の自然環境が良好に保たれ、安全で安心なまち、住みよさを実感できるまちづくりを進めています。2017年4月には、福岡県の協力のもと、本市が水力発電所の設置者となり「うきは藤波発電所」の運転を開始しました。発電量にして年間約97万kWh、一般家庭約270世帯分の電気を生み出し、年間約498トンの二酸化炭素排出量の削減に貢献するなど、再生可能エネルギーの導入による脱炭素社会づくりに積極的に取り組んでいます。また、本市面積の約半分が森林であり、貴重な水源であると同時に二酸化炭素の吸収にも大きく寄与していることから、「伐って、使って、植える」資源利用の好循環を生み出す適切な森林整備や木材利用の普及・拡大などにも取り組んでいます。

先人たちが築き守ってきた豊かな自然、住みよいまちを次の世代に引き継いでいくため、市民や事業者の皆様とともに、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取組みを進めていくことを宣言します。

令和4年1月31日

うきは市長

高木 伸雄